

銚子ジオパーク市民の会 ニュース

再認定 おめでとう

屏風ヶ浦(銚子市)

第111号

2021年02月25日発行

発行責任 工藤 忠男

銚子ジオパーク市民の会

URL: <https://choshigeopark.com>

再認定おめでとうございます

銚子ジオパーク市民の会 会長 工藤 忠男

昨秋に行われた2度目の再認定審査は、市民の会を含めた推進協議会の皆さまの努力により再認定されました。おめでとうございます。

2月5日に日本ジオパーク

36団体になります。

委員から出された、銚子ジオパークの審査結果は「4年前に指摘された課題の解決に向けた取り組みが進み、ジオパークのストーリーが構築され、情報提供が開始されている。子どもから大人まで幅広い対象に合わせた環境教育に力が入られてきたことで、活動に共感した市民や民間企業が増加した。観光船やシーカヤックなどのアクティビティ、地元レストランなどの事業者との連携が始まっており、この取り組みをジオツーリズムとして支える体制づくりが望まれる。以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。」という評価でした。

日々の活動はジオパークの保全活動、教育での利用、観光での利用等があり、推進協議会の複数の団体が連携してこれらの活動を行っています。この市民へ浸透した日常の活動がよかつたのではないかと思います。次の4年間は現状維持では無く、少しでも銚子ジオパークを良くする方向に持っていかなければなりません。次の4年後の再審査に向けて提示された課題は、事務局中心に市民の会を含む推進協議会加盟団体全体で取り組むものと思います。市民の会も推進協議会の一員として、これからも銚子ジオパークの発展のために頑張っていきたいと思います。

ジオパークの再認定審査とは？

銚子ジオパーク推進協議会 事務局 専門員 岩本直哉

日本ジオパーク委員会(JGPA)は、国際地質科学ジオパーク計画のガイドラインに示されている考え方に沿って、ジオパークの審査を行っています。再認定審査は、基本的には、活動の進捗状況を確認し、質の向上のために実施しています。日本ジオパークの再認定審査においては、地質遺産の保全、活用の仕組みと取り組み、前回審査時からのジオパーク活動の進展などについて審査



左から審査員の柴田氏、ヤゴダ氏

を行います。①では、日本ジオパーク認定審査において、「ジオパークを目指す地域は、持続可能な地域社会の実現のために、ジオパークとして、その地域にあったやり方で住民、行政、研究者などの関係者が、ともに考え続けているか。また、そのために、これまでのやり方を変える覚悟があるか」ということを最も基本的な判断基準として審査を行っています。この考え方を踏まえた上で、「前回審査時に指摘された問題点に対応できているか」、「地域が考え続けた結果としてジオパークの活動が質・量ともに充実しているか」、「持続可能な形で運営されてきたか」、「活動にともな

って明らかになっている問題点についてどのように対処し解決に向けて具体的な努力をしているか」などを審査します。加えて、今回は新型コロナウイルス感染拡大とそれに伴う自粛要請の状況下での活動、ポストコロナに向けた計画・展望等についても審査の対象として評価されました。

現地調査は、調査員が実際に現地を確認し、活動にかかわっている人々と話し合います。そして、最終的には、現地調査の報告と対象地域からの提出書類を総合的に審議し、再認定の可否を決定するので、②では、この現地調査を、現地調査員と地域とがより良いジオパークの実践について共に考え、学び合う場としても位置付けています。ちなみに今回も銚子ジオパークがより良い形で前進するための様々な建設的な意見をいただいております。

ジオパークは各地のジオパークとネットワークで共に活動しているのが強みです。そのため、このような審査を通してジオパーク全体の質を維持・向上させていく必要があります。

